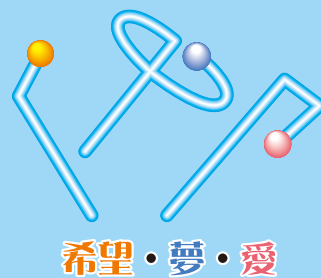


せんだん



一人も泣く人のいない一人残らずの人が喜ぶ社会づくり



オリエンテーション



新入職員宣誓

一れつ会は、新たな仲間を加えて、これからも、地域貢献が担えるように頑張つてまいります。
今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。
社会福祉法人 一れつ会 春日寮
管理者 延近 善浩

小林智久理事長からの挨拶の中で、マザー・テレサの言葉で6つの教えを例に出されながら、日々、ポジティブな思考で仕事に取り組んでほしいこと、そして、今後上司や先輩から様々な業務を依頼されるようになったときに、すぐに「無理。」や「できない。」、「やりたくない。」と言うのではなく、まずは、「やってみる。」と前向きに取り組むという思考で業務に取り組んでほしいと、激励の言葉が贈られました。

小林智久理事長からの挨拶の中で、マザー・テレサの言葉で6つの教えを例に出されながら、日々、ポジティブな思考で仕事に取り組んでほしいこと、そして、今後上司や先輩から様々な業務を依頼されるようになったときに、すぐに「無理。」や「できない。」、「やりたくない。」

青葉の候 日頃より、社会福祉法人一れつ会、関係事業所に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。
当法人は、令和4年4月1日（金）に入社式・辞令交付式を行い、昨年度途中で採用となつた3名の職員と今年度加わつた5名の新入職員を迎え、新年度をスタートいたしました。式では、入職者を代表して、せんだんの家配属の和田隆佑さんが、「若さを活かして、どんな事にも挑戦していきたいです。」と、決意と抱負を力強く宣言しました。



入社式前の記念撮影

社会福祉法人 一れつ会



●法人本部

〒720-2419 福山市加茂町字上加茂811番地
TEL : (084)972-5544 FAX : (084)972-5549 IP電話 : 050-3821-0740
HP : <https://www.ichiretsukai.jp> E-mail : itiretu@h2.dion.ne.jp

●事業所一覧

せんだんの家（生活介護、就労継続支援B型）
いこいの家（施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援）
ウイズ（就労継続支援A型）
ほほえみ（生活介護）
居宅介護支援センター和らぎ（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援）
ほっと（一般相談支援事業、特定相談支援事業、障害児相談支援事業）
しんぷおにい（生活介護、就労継続支援B型、日中一時支援）
春日寮（施設入所支援、生活介護） かすが（短期入所、日中一時支援）
青葉（生活介護、就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練（生活訓練））
いすみ（共同生活援助（グループホーム））
かがやき（放課後児童クラブ）

新入職員紹介

新しく一れつ会の仲間になった職員を紹介します。①所属事業所名 ②一れつ会に就職した動機・きっかけなど

和田 隆佑（わだ りゅうすけ）



①せんだんの家
②私の母校の先輩が多く入職しており、また、大学の先生からの勧めもあり、安心して就職ができると思ったことです。また、キャリアパス制度が充実していることや、多くの研修がある事を知り、自身の成長にも繋がれると考え入職しました。

テットンエイン



①いこいの家
②介護の仕事に興味がありマンマーからきました。香川県の高齢者施設で3年間働き、人とのコミュニケーションや介護の仕事が好きになりました。一れつ会で新たな経験をしたいと思っています。よろしくお願い致します。

沖津 富美（おきつ ふみ）



①ほほえみ
②昨年の秋、せんだんの家で実習をさせていただいた時、利用者さんも職員も楽しそうにしておられる様子が印象的でした。また皆さんにお会いしたいなあと思っていたら働かせて頂けることになりました。よろしくお願いします。

新谷 一樹（しんたに かずき）



①いずみ
②私は大学時代、経済学部で勉強していました。しかし、大学の就職課の担当者から一れつ会を紹介してもらい、「こんな自分でも出来る事がある。」「福祉という世界で働いてみたい。」という思いが生まれ、就職しました。

松葉 奈穂（まつば ななほ）



①かがやき
②かがやきでアルバイトをしていた時、「このまま一れつ会で働いてみたい。」と思ったからです。一れつ会の理念である「一人も泣く人のいない、一人残らずの人が喜ぶ社会づくり」を目指して頑張っていきたいと思っています。

小畠 茉奈美（こばたけ まなみ）



①しんふおにい
②しんふおにいで施設実習をしました。障がいのある方との関わりは初めてだったので緊張しましたが、一緒に活動したり、一人ひとりの特性を知って支援することを学んだりする中で、障がいのある方々の力になりたいと思うようになりました。よろしくお願いします。

谷川 真澄（たにかわ ますみ）



①春日寮
②以前は病院で看護師をしていましたが、就職活動をする中で一れつ会の事を知りました。「一人も泣く人のいない、一人残らずの人が喜ぶ社会づくり」という理念が素晴らしいと思い、働いてみたいと思いました。

平見 真一（ひらみ しんいち）



①春日寮
②大学時代に社会福祉学部に所属していた事もあり、以前から福祉事業に興味を持っていました。社会人になり人と接する仕事を行う中で、大学時代に学んだことを再度活かしたいと思い、就職しました。

前号より、35周年記念インタビュー

法人創立35周年を迎えた中で「地域だより せんだん」に約40年前から今日までの節目となった出来事等や当時の思いを法人創立者へのインタビューを通して4回に渡り連載しています。前号での1回目は神戸の施設を退職し、地元神戸辺町に帰る決意をした時の思いを掲載させていただきました。今号は神戸から帰ってきてからのことを聞いてみました。

ー神戸から帰って来てからの

お話を聞かせてくださいー

小林相談役（創設者・前理事長）

1982（昭和57）年8月に勤務先の社会福祉法人陽気会を退職し、故郷の神戸辺町に戻り、願いを託されたせんだんの家で働き始めました。実際に着任してみると在籍の利用者は1〜2名で、週に1日か2日の利用状況ということがわかり、これは大変だなと改めて現実の厳しさを実感しました。

作業所では、作業の確保・維持や運営費を得るために契約された作業があつ

て、ノルマをこなさなければなりません

でした。障がいのある人達の職能訓練の一環として小鳥の餌になる「塩土」という商品づくりとお土産用の乾物の入れ物のふちづくり「すげ柄はり」と呼ばれた作業を行っていました。利用者1〜2名と私以外の職員はおらず、私の両親、妻、家族総出で必死で作業のノルマをこなすという状態が半年ほど続きました。



小鳥用の塩土を干す小林所長（現相談役）とせんだんの家利用者さん
〔1984（昭和59）年1月14日 中国新聞抜粋〕

ー作業所名を改名された経緯と

その後のお話を聞かせてくださいー

小林相談役（創設者・前理事長）

作業所は福山北養護学校のPTAが卒業後の皆という願いを込めて建設されたこともあり、「広島県立福山北養護学校PTA共同作業所せんだんの家」と命名されており、地域の方からは「福山北養護学校の卒業生しか利用することが出来な

い」というイメージを持たれていました。

神戸市においては行政的な支援は受けやすいイメージでいたために、社会福祉法人の取得もそれなりに進んでいく、そんなに難しくはないと考えていました。そうした中で、広島県に社会福祉法人の認可や将来構想について相談に伺うと実績を

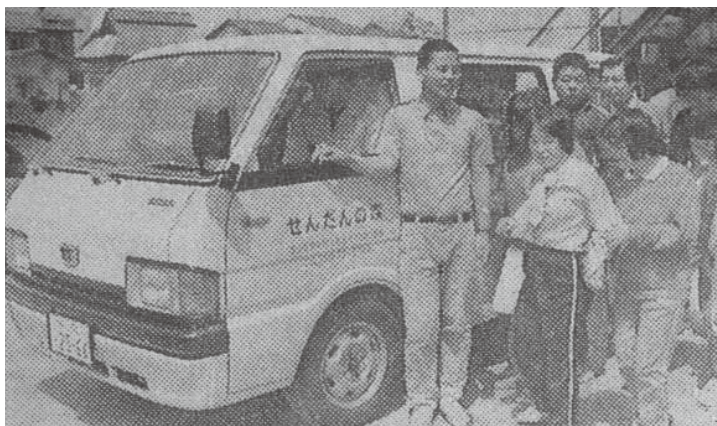


小島用の塩土づくりをするせんだんの家利用者さん
〔1985（昭和60）年1月19日 中国新聞抜粋〕

山北養護学校PTAは後援会組織として活動してもらうことになりました。作業所の活動内容や方針、誰でも利用出来るということ等を知ってもらうために地域を奔走する日々を過ごしました。地域へ出て挨拶をしたり、作業を通して関わりを増やしたことによって、少しずつ地域の方の意識に変化が見られるようになりました。

積み重ねれば認可は難しいといった事を言われ、広島県心身障害者就労促進事業の実施を促され、現実の厳しさに直面しましたが、実績の足掛かりとして広島県心身障害者就労促進事業の実施に取り組みました。この事業は1人の障がい者の通所に対して月額1万5千円の補助を受けられる事業でした。（19名打ち切り）

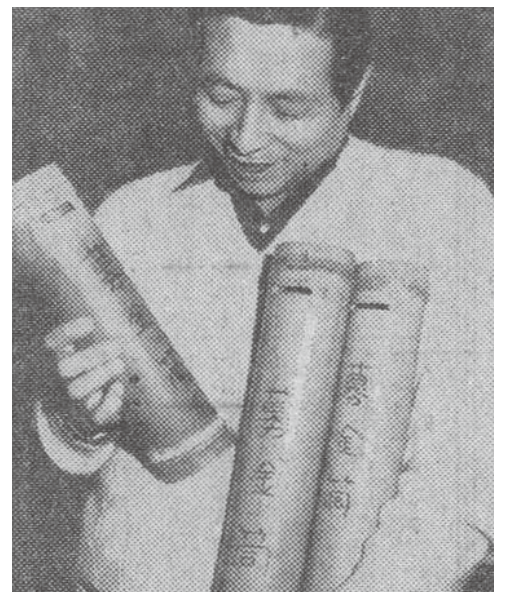
戸の大きな施設を辞めて故郷に帰り、ほんの小さな作業所の活動をはじめている変わった人がいる」と私に興味を持たれ、月に1〜2度は作業所に来られて取材をされ、その取材した内容を何度か新聞記事に載せていただきました。またテレビ局等の取材や放映もあって広く多くの皆さんに「共同作業所せんだんの家」を知ってもらうことが出来るようになっていきました。1983（昭和58）年には3名の人と一緒に働いてくれるようになり、養護学校（現・特別支援学校）の卒業生や地域の在宅の利用者も年々増えていきました。



広島県料飲・飲食業環境衛生同業組合青年部 連合会からの
ワゴン車のプレゼントに喜ぶせんだんの家利用者さん
〔1985（昭和60）年5月12日 中国新聞抜粋〕

確か1984（昭和59）年だったと思いますが、広島県から社会福祉法人の認可に対して協議をしていただけるようになり、念願の社会福祉法人取得の道が少しずつ開かれていきました。私が着任して2年余りの異例のスピードでここまで辿り着くことが出来ました。

新しい認可施設を建設するには用地の取得費や建設費用の自己負担分等の資金確保が必要になります。資金確保のために、資源回収（換金出来るビン、アルミ缶、段ボール、古新聞、雑誌）、それからイリコ、クリス



硬貨が詰まった竹筒3本の寄付を受ける
小林所長（現相談役）
〔1986（昭和61）年12月24日 中国新聞抜粋〕

リコ等の物品販売の袋詰め作業を毎日のようにやっていました。気が付けば時計は0時を回ることもたびたびありました。また地域のひととの交流も含めて地域の夏祭りや夜店に出店し、たこ焼き・焼きそば等の販売もボランティアの人達と一緒に取り組みました。困難な壁はいくつもありませんでしたが、利用者や家族、職員にとっては大変元氣や勇氣が湧き上がるような輪が広がり、多くの皆さんとのつながりに支えられながら、5年間余りで利用者は約40名に、職員も6名に増え、着実に社会福祉法人の設立に向けて前進していきました。



空き缶のプレス作業に精を出す
せんだんの家利用者さん
〔1988（昭和63）年1月23日 中国新聞抜粋〕

そしてその日がついにやってきました。
初代理事長である私の父と一緒に広島県
庁に社会福祉法人の認可書を受け取りに
行きましたが、新幹線の中で、私の父は、
「そんな5年程で簡単に法人認可書はも
らえるものではない。」と心配そうに話し
ていました。当時の県知事から父が認可
書を受け取り、法人認可が事実だと分か
った瞬間に、喜びを露わにしていたこと
を思い出します。

次号では、その後の社会福祉法人の設
立と加茂地区での事業展開について抱い
た願い等を聞いて紹介していきます。



起工式のビデオを見ながら新施設の着工を喜ぶ、せんだんの家利用者さん
（1987（昭和62）年10月15日 中国新聞抜粋）

ありがとうございました

（2021.9～2022.3）
（順不同）

●ご寄付

- ・加茂学区自治会連合会様
- ・旭 元様
- ・松井 敦子様
- ・藤井 義則様
- ・岩田 人志様
- ・岩木 康生様
- ・しんぷおにい家族会様

●ご寄贈

- ・J A 福山市 加茂支店様
- ・キャレオス(株)
夢門塾ゆうゆう様
- ・株式会社アデリー福山支店様
- ・株式会社ダスキニコニコ様
- ・株式会社ベッセル様
- ・株式会社吉野設計様
- ・三宅金属株式会社様
- ・信菱液化ガス株式会社様
- ・大洋電機産業株式会社様
- ・有限会社オフィスハート様
- ・有限会社オクダ様
- ・就実大学様

●草笛学園保護者様

- ・沖 敏徳様
- ・梶原 勝美様
- ・岩田 あゆみ様
- ・近藤 千賀子様
- ・江田 知恵様
- ・高橋 雅弘様
- ・山下 哲治様
- ・山田 俊乃様
- ・諏澤 隆様
- ・川上 篤美様
- ・相原 桂子様
- ・滝安 友啓様
- ・田邊 由紀様

●渡邊 幸子様

- ・嶋 理恵様
- ・藤井 栄子様
- ・藤井 康子様
- ・藤井 隆夫様
- ・得能 公平様
- ・内海 颯太様
- ・楠本 祐治様
- ・福田 修兵様
- ・片山 泰輔様
- ・林 邦子様
- ・土屋 康彦様

実習生・就業体験実習・職場体験・ボランティア・見学（2021.9～2022.3）

●実習生

（加茂地区）

- ・日本福祉大学様 1名
- ・就実大学様 4名
- ・作陽短期大学様 3名

●就業体験実習

（三吉地区）

（春日地区）

- ・銀河学院中学校様 2名
- ・広島県立福山北特別支援学校様 3名

●ボランティア

（三吉地区）

- ・日下 清美様

●見学

（加茂地区）

- ・草笛学園保護者様

公益財団法人日本財団助成事業完了のお知らせ

このたび公益財団法人日本財団から助成金の交付を受けて、下記の事業を完了致しました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、公益財団法人日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

- | | |
|----------|--|
| 一、事業名 | 障害福祉サービス事業所ほほえみの改造事業 |
| 一、事業内容 | (1) 特殊浴槽工事（浴槽1台の増設、走行式リフト1台、ストレッチャー2台の設置、その他付帯設備等）
(2) 浴室工事（パネルヒーターの設置、特殊浴槽電源工事、給湯管の修繕、混合水栓の更新）
(3) エレベーターの修繕保守工事（1基） (4) 排煙装置の修繕
(5) 自動ドアの更新工事（手動ドアへの変更1基、更新3基）
(6) 事務所入口ドアの更新 (7) 洋式トイレ便座の更新（9基）
(8) 空調機器工事（更新15基） (9) 照明器具のLED化（10）壁・クロスの張替 |
| 一、事業費総額 | 33,640,500円 |
| 一、助成金額 | 28,780,000円 |
| 一、事業所名称 | 障害福祉サービス事業所 ほほえみ |
| 一、事業所所在地 | 広島県福山市加茂町字上加茂805-1 |

社会福祉法人 一れつ会 理事長 小林 智久

ほほえみ（生活介護）は、2002（平成14）年4月に開所し、20年が経過しました。施設設備の老朽化が進み、改修や設備更新に迫られていました。また、利用者さんのご希望や状態に合わせた施設整備も必要となっていました。

今回は、改造内容の一部ですが、「入浴環境」についてご紹介させていただきます。

ほほえみは、一日に約22名の利用者さんが入浴サービスを利用されています。難病や障がいによる筋萎縮・拘縮の進行などにより座位が保てず、これまでの入浴設備（座位タイプ）では入浴が難しくなった利用者さんが、新たな浴槽の増設により、仰臥位（寝た姿勢）で入浴できる環境を整えることが出来ました。湯船に浸かれるようになり、ある利用者さんは表情が和らぎ、腕の拘縮や肌の状態が以前に比べて改善しました。その様子にご家族も大変喜ばれていました。

最後になりますが、公益財団法人日本財団をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで御礼申し上げます。ありがとうございました。

ほほえみ 谷本 美千子

特殊浴槽



走行式リフト・ストレッチャー



一れつ友の会の会員になってください

一れつ友の会は、社会福祉法人「一れつ会」が、運営する施設や将来計画している施設の運営に協力し、心身障がい者福祉の向上と福祉教育を通して、互いに助け合いの社会づくりを目的としています。活動推進のために、この会の目的をご理解頂き、友の会への新加入・ご更新をお願いいたします。

○普通会員 1口 5000円/月 ○協力会員 お気持ちに応じて

お問い合わせ・お申し込みは一れつ友の会（せんだんの家内）までお願い致します。TEL（084）972-5544



「QRコード」から過去の地域だよりをご覧ください。